

モジュラー式車いす

# 自走用 NA-U7 介助用 NAH-U7

## 取扱説明書

この度は、製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。製品を安全、快適にご使用いただくための大切な内容が記載されております。ご使用前に必ずお読みください。  
 なお、保証書も掲載致しておりますので、大切に保管してください。

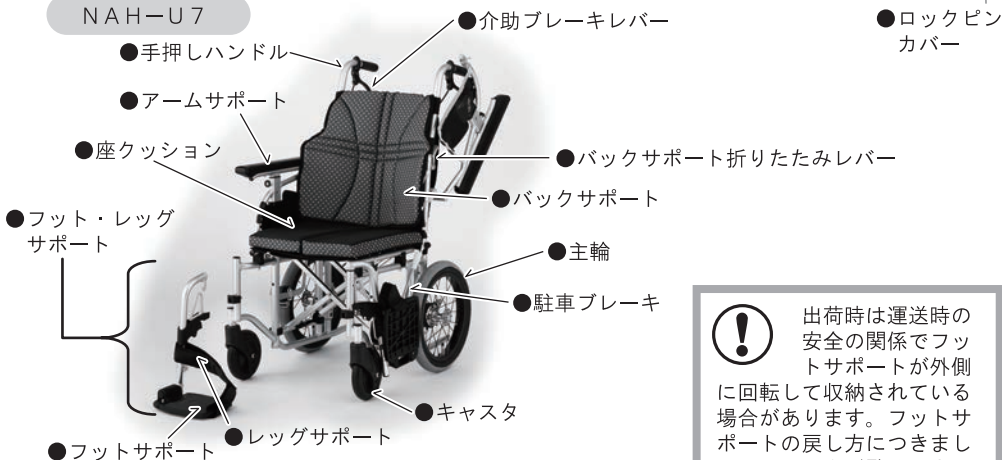
目次はP26に掲載しております。

### 各部の名称

#### NA-U7



#### NAH-U7



出荷時は運送時の安全の関係でフットサポートが外側に回転して収納されている場合があります。フットサポートの戻し方につきましては、P8をご覧ください。

## ご確認ください

### NA-U7

NA-U7は乗車者自身でハンドリムを駆動して操作する車いすです。この車いすは、特別な身体保持具、バックサポート（背）の角度調整・座位の姿勢変換（昇降・旋回など）等の機構がない、標準型の自走用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこの標準型が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準型が使用に適さなくなることがあります。

### NAH-U7

NAH-U7は介助者が操作する車いすです。この車いすは、バックサポート（背）の角度調整・座位の姿勢変換（昇降・旋回など）等の機構がない、標準型の介助用車いすです。なお、購入時はこの標準型が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準型が使用に適さなくなることがあります。

## 仕様・サイズ

項目 \ 機種	NA-U7	NAH-U7
全長	100 (99) cm	100 (92) cm
全高	92~96 (65~69) cm	
全幅	57~61 (30) cm	54~58 (26) cm
前座高/後座高	調節式 40/38・42/40・44/42 cm	
シート幅 (アームパイプ内々寸)	工具不要調整式 40・42・44 cm	
アームサポート高	調整式 24・26・28 cm	
手押しハンドル高	89~93 cm	
バックサポート高	45 cm	
バックサポート角度	96° (バックサポート折りたたみ金具上部+10°)	
キャスタ	6インチPUキャスタ輪+高さ調節式キャスタフォーク	
駆動輪・主輪	22インチ車輪 (25-501)	14インチ車輪
重量 (座クッション除く)	14.7 kg	13.2 kg
耐荷重	100 kg (積載分含む)	
使用時適正タイヤ空気圧	100 PSI (6.90 kpa/6.9 BAR)	58 PSI (4.00 kpa/4.0 BAR)
駆動輪取付けナット	インチねじ (UNF 1/2-20山) を使用	

※全長・全高・全幅の ( ) 内は折りたたみ時の寸法です。

## 車いすの拡げかた

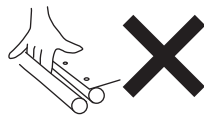
- 1** 手押しハンドルを持って軽く左右に拡げてください。



- 2** 片方の手押しハンドルを持ち上げるように反対側の座面下のパイプ部を下の方へ押し下げます。



**!**  
注意  
警告



押し下げる際、座面パイプの下側や横側に手や指を入れないでください。危険です。

**3**



シートパイプ受け

座面下のパイプが、左右とも、シートパイプ受けにしっかりと収まっているか確認してください。

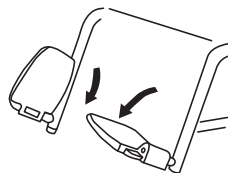
※背・座シートのベルトをきつく張りすぎていると正しく収まりません。

その場合は、ベルトの調整をしておしてください。

(P11～P14参照)

**4**

フットサポートプレートを下方へ回転させるようにセットします。使用者が車いすに座ってから行うのが一般的です。



**5**

座面の上に座クッションを装着してください。  
(専用座クッションの装着方法についてはP9を参照してください)



**警告**

座クッションを装着しない状態で製品を使用しないでください。事故につながるおそれがあります。

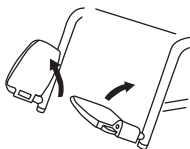
## 車いすの折りたたみかた

専用座クッションを装着したままでも折りたたみができます。



車いすを折りたたんで長時間保管する場合は、座クッションを車いすからはずしてください。座クッションをつけたまま、長い間車いすをたたんでおくと、座クッションに車いすフレームパイプの跡がつく場合があります。

1



フィットサポートプレート  
を上方へ回転させて収納  
します。

2



座面の前から1本目のベル  
トと4本目のベルトの中央  
部を持ち上げます。

3



手押しハンドルを持って、  
左右から押し縮めるように  
折りたたんでください。

4



たたみにくい場合は、両サイドから駆動輪（主輪）の  
車軸部分を内側に押ししてください。



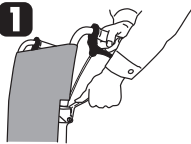
注意

スポークやフレームの間で手や指を挟まない  
ように注意してください。

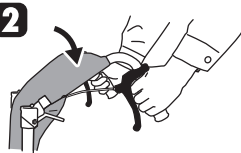
## バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた

### 折りたたみかた

1



2



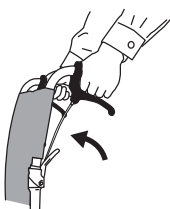
手押しハンドルを握り、一方の手でバック  
サポート折りたたみレバーを下に押しなが  
ら、手押しハンドルを手前に引くように少  
し折り曲げます。反対側も同様の手順で少  
し折り曲げてください。続いて、左右同時  
に折りたたみます。



警告

車いすに乗る際は、完全にバック  
サポートが固定されている事  
を確認してから、座ってくださ  
い。

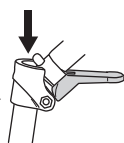
### 固定のしかた



手押しハンドルを握り、  
上方へ引き起こすよう  
に持ち上げてください。  
左右のスライドピンが  
「カチッ」とロックさ  
れたことを必ず確認し  
てください。



注意  
警告



●矢印の部分に手や指  
を置かないでください。  
●矢印の部分にバック  
サポートシートをはさ  
みこまないように注意  
してください。

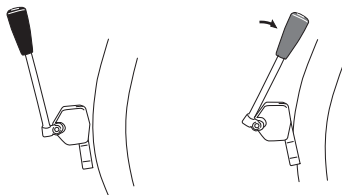
●車いすに乗る際は、完全にバックサポ  
ートが固定されている事を確認してから、  
座ってください。

## 駐車ブレーキのかけかた

- レバー先端のノブを手で後方に引くと駐車ブレーキがかかります。レバーを前に戻した状態が解除です。

解除時

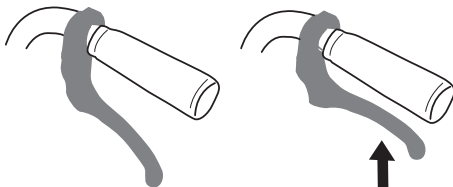
駐車



注意  
警告

- ・ 駐車ブレーキは左右両輪ともしっかりとかけてください。片側だけのブレーキをかけた状態で駐車をしないでください。
- ・ しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- ・ 坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- ・ ブレーキレバーに体重をあずけたり、足でレバー操作するなど、レバーに強い力がかかる行為はしないでください。
- ・ レバー操作は、ブレーキシューやタイヤに手指があたらないように注意しながら、しずかに行ってください。

## 介助ブレーキのかけかた



解除時

介助ブレーキ

左右の介助ブレーキレバーを同時に握ると介助ブレーキがかかります。



禁止

介助ブレーキは、駐車ブレーキとして使用することはできません。駐車目的では使用しないでください。

## 駆動輪の操作のしかた（NA-U7のみ）



- ・ 乗車者がハンドリムを握り、ハンドリムを前に押したり、後ろへ引いたりすることで、前進又は後退します。
- ・ 走行中にブレーキをかけるには、ハンドリムを握って駆動輪を止めます。



注意

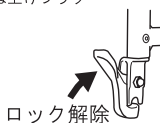
タイヤを握って漕ぐと、ブレーキやフレーム、アームサポート等の間で指を挟むことがありますので注意してください。

## アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた

### 跳ね上げのしかた



アームサポート  
跳ね上げプラグ



アームサポート先端のアームサポート跳ね上げプラグのレバーを後方に倒すと、アームサポートの固定（ロック）を解除することができます。ロックを解除して、アームサポートを上に戻させるようにしてください。



### 戻しかた



戻すときは、アームサポート跳ね上げプラグを握らずに、そのまま「カチッ」というまでアームサポートを押し下げてください。



**注意  
警告**

- ・アームサポートの跳ね上げは必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ・アームサポートを跳ね上げた状態で車いすを動かさないでください。
- ・跳ね上げて移乗する際は必ず、アームサポート跳ね上げプラグがバックサポートパイプの前に出ない位置まで跳ね上げてください。
- ・戻すときには、アームサポートとフレームや座面の間やジョイント部に、身体や衣服が挟まらないように注意してください。



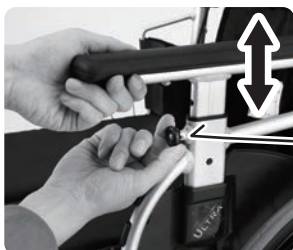
**警告**



アームサポートが跳ね上げられている時は、左写真の矢印部分に手や指を置かないでください。アームサポートを戻すときや、衝撃等でアームサポートが戻ってしまったときなどに、フレームで手指をはさんでケガをするおそれがあります。



## アームサポート高の調整のしかた



調整用ボタン

- アームサポートを持ち、調整用ボタンを引いて、ロックを解除し、アームサポートの高さをゆっくりと上下させ、高さを調整します。
- 調整用ボタンがロックできれば調整は完了です。



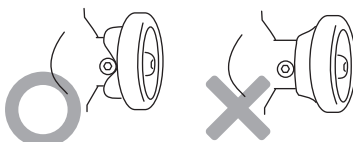
**注意**

- ・手指等を挟まないように注意してください。
- ・アームサポートが調整用ボタンでしっかりと固定されていることを確認してください。



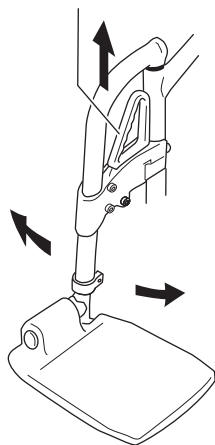
**注意  
警告**

アームサポート調整用ボタンがしっかりかかって、ロックされていることを確認してください。使用中にロックがはずれると、転倒やケガをするおそれがあります。



# フット・レッグサポートの開閉のしかた・着脱のしかた

## スイングイン・アウト用レバー

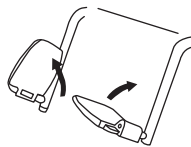


## 開閉のしかた・はずしかた

※乗車者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

- スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートを内側・外側へ回転させることで、フット・レッグサポートの開閉（スイングイン&スイングアウト）ができます。

※フットサポートプレートが当たって、内側に回転できない場合は、フットサポートプレートを跳ね上げてから操作をしてください。

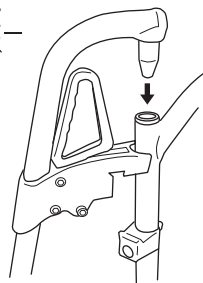


- スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートを上方に引き上げると、フット・レッグサポートを本体からはずすことができます。



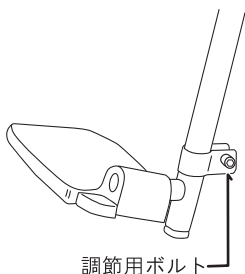
## 取付けかた

- ①フット・レッグサポートを外側に開いた状態の角度で、フット・レッグサポートのインナーパイプをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。



- ②スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートがまっすぐになる位置まで、内側に回転させてください。
- ③フット・レッグサポートがまっすぐな正しい位置になったら、レバーから手を離してください。レバーが戻り、フット・レッグサポートがフレームに固定されていることを確認してください。（フット・レッグサポートが左右に動いたり、上方に抜けたりしないことを確認してください。）

## フットサポートの調節のしかた

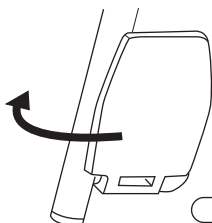


フットサポート高調節用ボルト  
締め付けトルク 6～7Nm

- フットサポートプレートの上にある、調節用ボルトを4mmの六角レンチで緩めて、フットサポートの高さを合わせてから、調節用ボルトをしっかり締め付けます。  
(極端に強く締めすぎると、締め付けクランプ部品が破損する場合がありますのでご注意ください。)



- ・調節後はしっかりと調節用ボルトを締めて固定してからご使用ください。(極端に強く締めすぎると、締め付けクランプが破損する場合がありますのでご注意ください。)
- ・フットサポートを下げすぎると、段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最下端部で、地面から5cm以上あけてください。
- ・調節用ボルトが完全に緩んでいない状態で無理にフットサポートを動かさないでください。ポストにキズがつき、調節がしにくくなる場合があります。
- ・フットサポートに腰掛けたり、登ったりしないでください。



出荷時はフットサポートを、外側後方に回転して収納してある場合があります。上記説明の通りに調節用ボルトを緩めて、フットサポートプレートを前方に回転させ、高さを調節してから、調節用ボルトをしっかり閉めて固定してください。



## サイドガードについて (必ずご確認ください)



●サイドガード

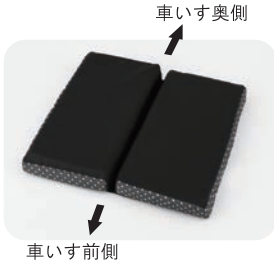


サイドガードはメンテナンスのためにはずせる構造になっていますが、販売店様以外の方はサイドガードをはずさないでください。サイドガードがはずれた状態での使用は事故や製品の破損につながるおそれがあります。サイドガードが車いすにしっかりと装着されていない場合や、サイドガードに亀裂や破損がある場合は使用を中止し、販売店までご相談ください。

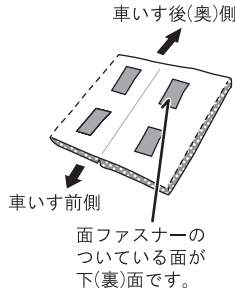


# 折りたたみ対応専用座クッションの使いかた

## 座上(表)面



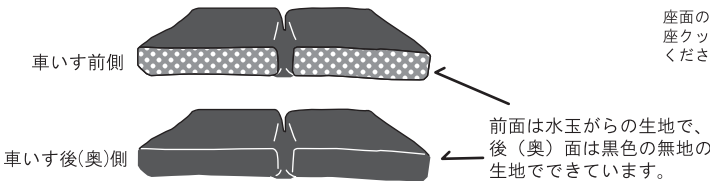
## 座下(裏)面



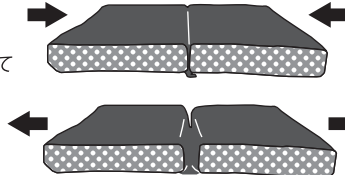
クッション下(裏)面の面ファスナーと座面ベルトの面ファスナーをはり合わせてしっかりと固定します。



座面の一番前のベルトの前端の位置に座クッションの前端の位置を合わせてください。



車いすのシート幅広さにあわせて、座クッションの幅を調整して使用してください。



車いすのシート幅が狭いときは、座クッションの左右をぴったりと近づけて使用します。

車いすのシート幅が広いときは、座クッションの左右を離して、座クッションの幅をひろげて使用します。



### 警告

クッションがしっかりとシートに固定されていない状態や、クッションのファスナーがしっかりと締められていない状態でクッションを使用しないでください。



### 警告

座クッションを装着しない状態で製品を使用しないでください。事故につながるおそれがあります。

折りたたみ対応専用座クッションは、車いすに固定したままでも、車いすを折りたたむことができます。



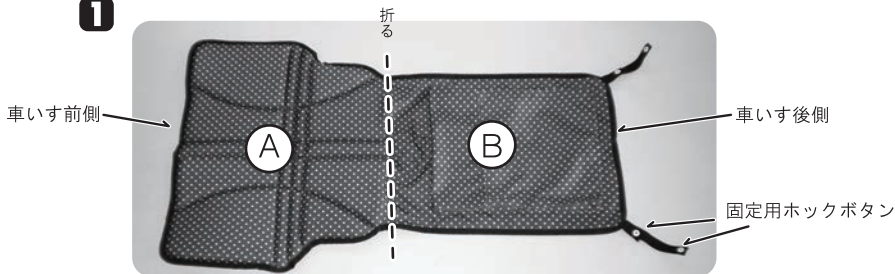
### 注意

車いすを折りたたんで長時間保管する場合は、座クッションを車いすからはずしてください。

座クッションをつけたまま、長い間車いすをたたんでおくと、座クッションに車いすフレームパイプの跡がつく場合があります。

## バックサポートシートの取付けた

1



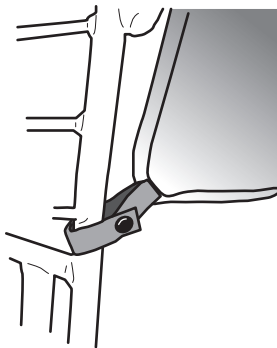
バックサポートシートを上写真のA面がインナーシートの前側、B面がインナーシートの後ろ側になるように、かぶせます。

折った部分がインナーシートのトップにあたるようにかぶせてください。



2

左右のホックボタンのついたベルトを、バックパイプにまわし、ホックボタンでとめて、左右とも固定してください。



注意

- ・バックサポートシートの取付けは駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ・車輪のスポークや各部で手指等を挟まないように注意してください。

取付け時

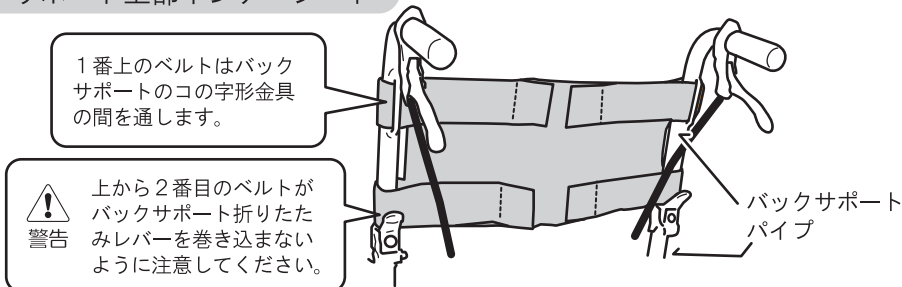




## インナーシート・座奥ベルトの装着について

- インナーシートと座奥ベルトは必ず、下記の通りに正しく装着して使用してください。

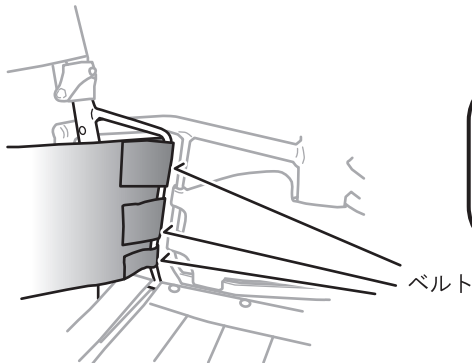
### バックサポート上部インナーシート



全てのベルトを、必ず、バックサポートパイプを巻き込んで取り付けて、面ファスナーでインナーシート面にしっかりと貼り合わせて固定してください。

### バックサポート下部インナーシート

全てのベルトを、必ず、インナーシート取り付け用の細いパイプを巻き込んで取り付けて、面ファスナーでインナーシート面にしっかりと貼り合わせて固定してください。



**警告**

バックサポートインナーシートが正しく装着されていない状態で乗車した場合、落下や各部の誤動作等で重大な事故につながるおそれがあります。

### 座奥ベルト



座奥ベルトはこのパイプを上から巻き込んで取り付けてください。

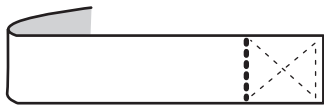


**警告**

座奥ベルトが正しく装着されていない状態で乗車した場合、落下や各部の誤動作等で重大な事故につながるおそれがあります。

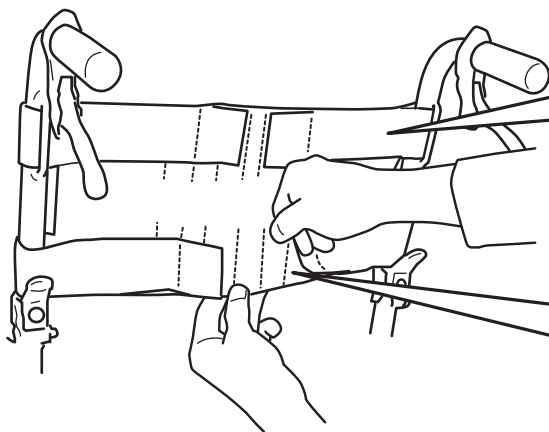
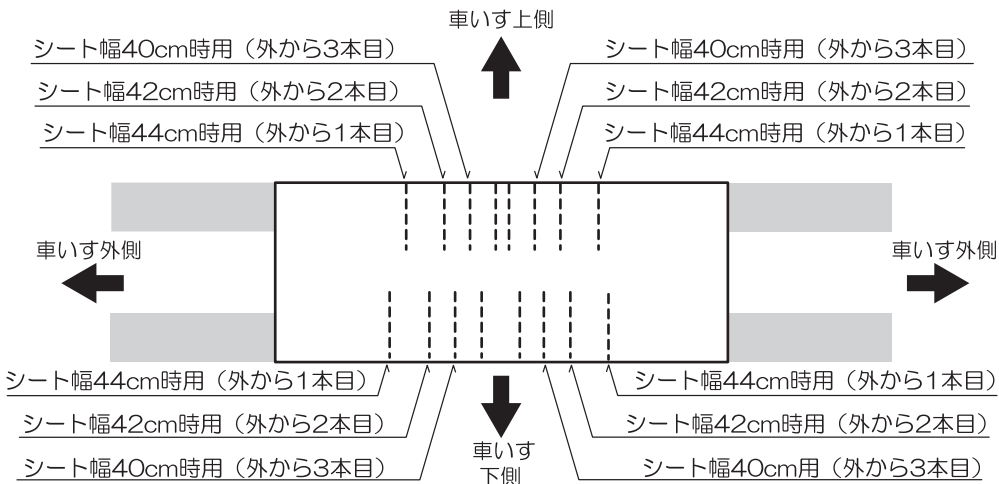
# バックサポートインナーシートの設定のしかた

## バックサポート上部の調整



このラインをインナーシート上のラインに合わせます。

面ファスナーつきベルトの赤い縫い糸のライン（左図）を、インナーシートの赤い縫い糸のラインに合わせます。設定するシート幅により、インナーシートのどのラインと合わせるのかがかわります。

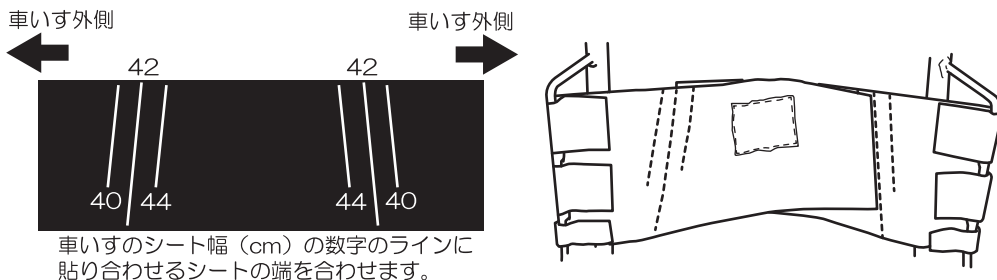


ベルト4本とも、車いすのシート幅にあわせて正しく設定してください。

面ファスナーで確実に固定してください。

## バックサポート下部について

バックサポートの下部は赤い縫い糸のラインにあわせて、シートを重ねて使用します。車いすのシート幅によりどのラインの合わせるのかわかります。（右図はシート幅42cmの場合）



全てのインナーベルト、インナーシートが面ファスナーでしっかりと固定されていることを確認し、めくり上げていたバックサポートシートを元にもどします。



### 注意 警告

- ・バックサポート上部が使用者が乗車した状態で調整する場合、ベルトは必ず1本ずつはずして調整してください。一度に2本以上のベルトの面ファスナーをはずすと、乗車者が落下しケガをするおそれがあります。
- ・ベルトの面ファスナーは確実にバックサポート面に貼りつけてください。
- ・バックサポートの張り調整は、必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ・ベルトが破れていたり、面ファスナーがしっかりと効かなくなっている場合などは使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。

## 座面の張り具合の調整のしかた

- 1** 座クッションをはずしてください。



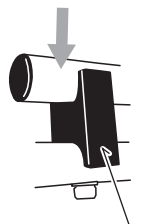
任意にて面ファスナーベルトの緩み具合を調整し、しっかり面ファスナーを固定してください。

- 3** 座クッションを取付けて完了です。  
※座クッションは、しっかりと取付けてください。  
※専用座クッションの取付につきましてはP 9を参照してください。



注意

- 人が乗車していない状態で作業してください。落下してケガをするおそれがあります。
- 緩めすぎると、折りたたみフレーム部と臀部があたるおそれがあります。
- インナーベルトが正しく取付けられて、面ファスナーでしっかり貼り合わされていることを確認してください。
- 座面下のパイプが、左右とも、シートパイプ受けにしっかりと収まっているか確認してください。収まっていない状態での使用は故障や破損の原因となります。  
※ベルトをきつく張りすぎていると正しく収まりません。その場合は、ベルトの調整をしておしてください。



シートパイプ受け



# シート幅の調整のしかた



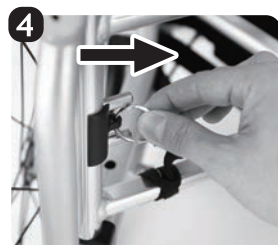
1 座クッションとバックサポートシートを車いすからはずします。



2 座・背上部ベルトの面ファスナーをはずします。



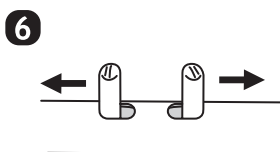
3 手押ハンドルを地面につけるように車いすを立てます。



4 折りたたみフレーム下部のロックピンカバーを引っばってはずします。




5 ロックピンを握り、ロックを解除して、希望するシート幅にあった穴位置（下图A参照）まで、折りたたみフレーム下部パイプをスライドさせます。



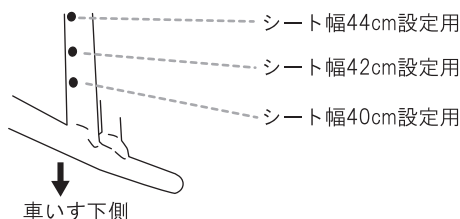
6 ロックピンによるロックが前後両方もしっかりとかかっていることを必ず確認してください。



7 反対側の折りたたみフレーム下部パイプも、5・6と同じ手順でスライドさせてください。

 必ず、左右同じ高さの穴位置に設定してください。

## 図A シート幅と穴位置の関係

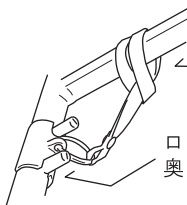






ロックピンカバーをしっかりと押し込んでください。左右2つとも確実に装着してください。

❗ 確認してください！



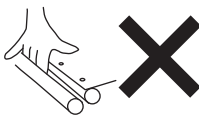
ロックピンカバーのひもが、折りたたみフレームに確実に巻きつけられているか。

ロックピンカバーが確実に奥まではまり込んでいるか。

9 車いすを起し、座面下のパイプを左右とも、シートパイプ受けにしっかりと収めます。



❗ 注意  
警告



座面下のパイプを押し下げる際、パイプの下側や横側に手や指を入れないでください。危険です。

10 座面の全てのベルトと座奥ベルトを張り、面ファスナー貼り合わせてしっかりと固定してください。

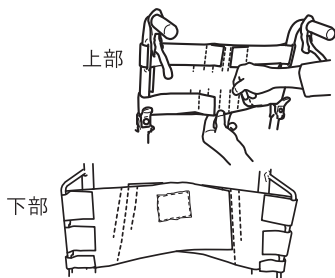


座面ベルトの調整はP14を参照してください。



座奥ベルトの取付固定はP11を参照してください。

11 バックサポートインナーシート（上部と下部）を調整したシート幅に合わせて設定し、面ファスナーをしっかりと固定します。



バックサポートインナーシート（上部と下部）の調整はP12・13を参照してください。

12 バックサポートシートと座クッションを装着して完了です。



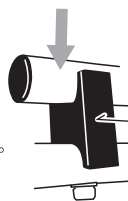
バックサポートシートの装着はP10を参照してください。

座クッションの装着はP9を参照してください。



注意

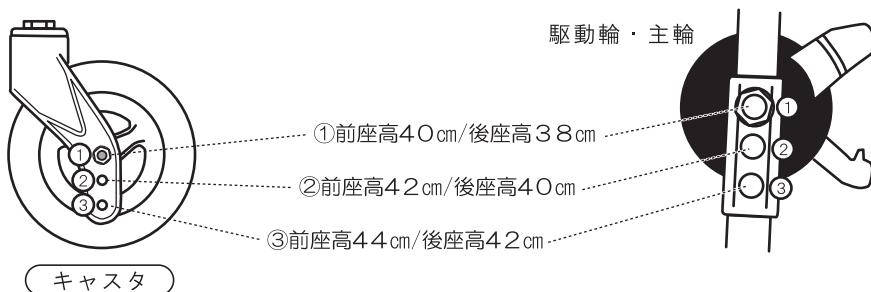
- 人が乗車していない状態で作業してください。乗車した状態で調整をすると、搭乗者が落下してケガをするおそれがあります。
- インナーベルトが正しく取付けられて、マジックでしっかりと貼り合わされていることを確認してください。
- 座面下のパイプが、左右とも、シートパイプ受けにしっかりと収まっているか確認してください。収まっていない状態での使用は故障や破損の原因となります。  
※ベルトをきつく張りすぎていると正しく収まりません。その場合は、ベルトの調整をしておいてください。



シートパイプ受け

## 座面高の調節について

キャスタ車輪を止めている車軸ボルトの穴位置と駆動輪（主輪）を止めている車軸ボルトを取付けている穴の位置を変更することで座面の高さを変更することができます。



キャスタ車輪の車軸と駆動輪の車軸は①・②・③のうちの同じ番号の位置に設定してください。  
※座面高を変更する場合は、駐車ブレーキの調節も必要となります。



禁止

キャスタと駆動輪の車軸を①・②・③の番号が異なる組合わせで設定しないでください。正常な走行ができなくなり危険です。



注意  
警告

- ・車軸ボルト・ナット類はしっかり締めてください。車輪が脱落し、事故につながるおそれがあります。
- ・車軸ボルトのワッシャー類・車軸部カバー・スペーサー（NA-U7に付属）は元通りにセットしてください。（NAH-U7ではスペーサーは使用しません。）



車軸部カバー



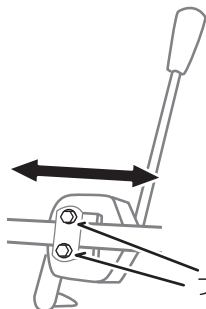
スペーサー（NA-U7で使用）

ドラムブレーキ金具とフレームの車軸ラックの間に挟みこみます。



座面高の変更につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

## 駐車ブレーキの調節方法（座面高を変更した場合は必ず調節してください）



- ①駐車ブレーキのブレーキ取付けボルトを緩めます。
- ②ブレーキがしっかりかかる位置までブレーキ本体をずらします。
- ③ブレーキ取付けボルトをしっかり締めて固定し、完了です。



注意  
警告

使用前には、駐車ブレーキがしっかり効くかどうか、駐車ブレーキがブレーキ取付けボルトとブレーキ取付けプレートでしっかり固定されているかどうか、必ずご確認ください。

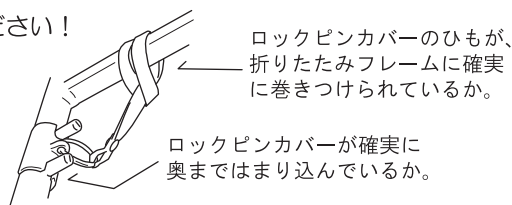


ブレーキの調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

## 使用前点検（必ず行ってください）

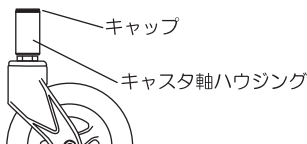
- 介助ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
  - 駐車ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
  - 介助ブレーキのワイヤーの張り具合が適当かどうか点検し、正常に動作するかどうかご確認ください。
  - ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかご確認ください。  
※特に、駐車ブレーキの取付け部や、車輪軸部は確実に確認してください。
  - シート・ベルトに亀裂や破れがないかご確認ください。
  - 駆動輪・主輪タイヤの空気圧は適切かどうかご確認ください。（不足している場合は補充してください）
  - 駆動輪・主輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないか、チューブがパンクしていないかご確認ください。
  - 車輪のガタ・緩み・曲がり等がないかご確認ください。
  - 前輪キャスタ輪及びキャスタフォークに変形、ひび割れ等がないかご確認ください。
  - 前輪キャスタが緩んでいないか、抜け落ちていないかご確認ください。
  - バックサポートのインナーシートとアウターシート、座面のベルトと座クッションが正しくしっかりと取付けられているかご確認ください。
  - 左右のサイドガードがしっかりと装着されているかご確認ください。
  - 各部パーツの変形、破損がないかご確認ください。
- 左右のロックピンカバーが確実に装着されているか、ロックピンカバーのひもが折りたたみフレームに確実に巻きつけられているか、ご確認ください。

⚠ 確認してください！



※左右のロックピンカバーや紐が確実に装着されていないと、  
駆動輪（主輪）に巻き込まれる可能性があり、危険です。

- キャスタ軸ハウジング上端のキャップが、キャスタ軸ハウジングにしっかりとハマっていることを確認してください。キャップが浮いている場合はキャスタフォーク固定ボルトが緩んでいる可能性がありますので、使用を中止し、販売店に点検を依頼してください。



警告

製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに販売店に修理・部品交換・調整をご依頼ください。

## メンテナンス・保管方法

- ボルトの緩み、フレームのガタ、タイヤの空気圧の減少など目視や簡単に手で触って分かるようなチェックは、定期的に行ってください。
- 各部のメンテナンス（調節・補修・修理・部品交換等）はお買い上げの販売店にご依頼ください。
- シートが汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後水で濡らした布で洗剤をきれいに拭き取ってください。汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。
- 屋内の湿気が少ない場所に保管してください。雨に濡れたり、湿気の高いところには保管しないでください。
- 直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けてください。



## 注意・警告

### 主に製品を使用する前にご注意をいただくことや、メンテナンス等についての注意

- 各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながる場合があります。定期的に取り扱い業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
- フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。（使用中に中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。）
- 水にぬれた場合、そのままにしておくとう製品に錆びやカビが出る場合があります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用はしないでください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所（車中など）に製品を放置しないでください。フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与える場合があります。
- 改造や分解はしないでください。
- 当取扱説明書内に記載の寸法や重量の値には、製造の都合上、多少の誤差がありますのでご了承ください。

### 主に製品を使用中・走行中にご注意をいただくこと

- 使用者の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- 身体寸法や身体の状況が車いすに合わない場合は使用をしないでください。からだに合わない状況で製品を使用すると、製品の故障や事故、身体への悪影響につながるおそれがあります。
- シートの張り調整が不適切な状態での使用はしないでください。ベルトを極端にきつく張りすぎていても、車いすの折りたたみ動作や可動に悪影響を及ぼし、破損や事故につながるおそれがあります。
- 走行時には地面に凹凸や障害物がないか十分に注意してください。走行中、各部に凹凸や障害物が引っかかると、転倒や製品の破損のおそれがあります。
- 倒れかかるとような座り方や、身を乗り出すような座り方はしないでください。バランスをくずして転倒することがあります。
- 乗車中に大きな前かがみの姿勢をとらないでください。（例：足下や前方にあるものを触ろうとしたり、拾おうとして、前かがみの姿勢にならないようにご注意ください）。バランスをくずして車いす及び乗車者が前方に転倒するおそれがあります。
- 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- エスカレーターでの使用はしないでください。転落による事故のおそれがあります。
- 踏切りを横断の際は、車輪・キャスタ輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまる危険があります。
- 手押しハンドルや各部フレームなどに手荷物等を掛けしないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒するおそれがあります。
- フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
- 坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- 乗車者・介助者とも、車いす使用時には靴をはいてください。はだしで車いすを使用しないでください。思わぬケガのおそれがあります。

### その他にご注意をいただくこと

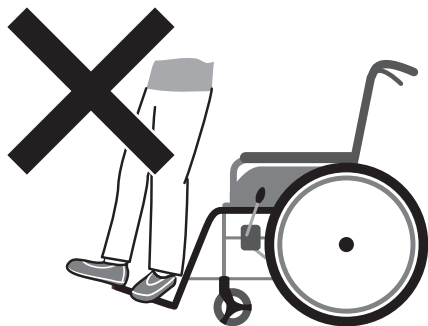
- フレームの座面下側や、車輪、各部の隙間等に手を入れしないでください。各部が動いたり、でっばりに手を触れたりすると、ケガのおそれがあります。
- 持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。（アームサポートやフット・レッグサポート、手押しハンドル、シート等を持って運ぶと、製品の破損や事故につながるおそれがあります。）
- 本書記載以外の使用はしないでください。
- 踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
- 子供に操作をさせないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- 体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。
- 周辺に小さなお子様がいらっしゃる場合は、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので十分にご注意ください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱いをしたり、落としたり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損することがあります。
- 製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄につきましては、販売店までお問合せください。

## 車いすを安全にご使用いただくための注意事項



禁止

フットサポートの上に立たないでください。

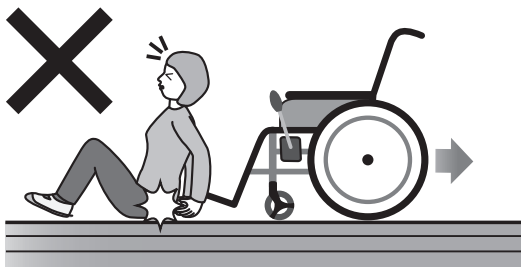


車いすのフットサポートの上に立つようなことはしないでください。製品の破損のおそれだけでなく、転倒による事故の危険があります。



注意  
警告

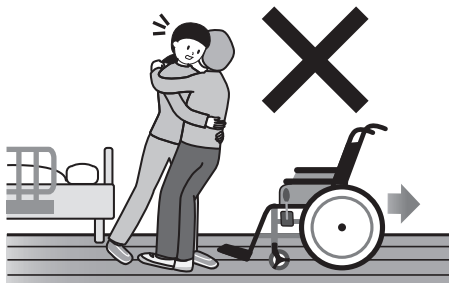
車いすからの乗り降りは、左右の駐車ブレーキを確実にかけておこなってください。



車いすから乗り降りする場合は、左右の駐車ブレーキを確実にかけて、乗降動作をおこなってください。駐車ブレーキがかかっていない状態での乗り降りは、転倒や車いすが思わず動き出してしまうことでの事故の危険があります。

左右の駐車ブレーキを確実にかけて行ってください。

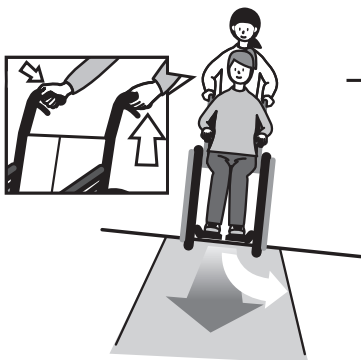
- 車いすからの乗り降り
- 車いすからベッドなどへ、ベッドなどから車いすへの移乗
- 車いすからはなれる



## 車いすの使用のポイント

### 押し方

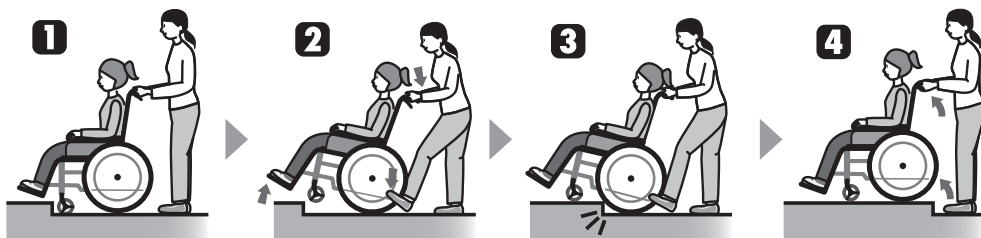
介助者が車いすのグリップを握り、進行方向へ押します。急発進・急停止は、乗車者に不快感を与えます。声をかけるなどの配慮をお願いします。



### ■外での注意（傾いた道での押し方）

傾いている側の手に力を入れて、車いすが低いほうへ曲がらないようにして押します。普通の押し方では低いほうに曲がってしまいます。

### 段 差



- 1** 段差の直前で停車します。
- 2** グリップを引きながら同時にティッピングレバーを踏み、キャストを上げます。
- 3** 段差に駆動輪（主輪）を当てます。
- 4** グリップを持って車いすを持ち上げ、段差を乗り越えてください。

## 坂道



上がる時は前向きで。

下るときは後向きで。

坂道では、前傾の姿勢で前向きで上り、後ろ向きで下るのが基本です。



坂道を前向きで下ると、乗車者が前方へ転倒したり、前方へズレたりして大変危険です。

## 溝や踏切

キャストや駆動輪の幅・直径よりも広い溝や踏切等を通過する場合は、溝に対して直角に進入してください。直角でない場合、キャストや駆動輪が溝にはまり、抜けなくなる恐れがあります。溝の手前でキャストを持ち上げ、通過する方法もあります。



## グレーチング

グレーチング（側溝を埋める金網など）を通過する場合は、右図のようにグレーチングに対して斜めに進入してください。



## 車いすのトラブルシューティング

故障かな？と思ったら、まずは販売店へお問い合わせください。

症状	原因	解決方法
斜行する。 まっすぐ走らない。	主輪・駆動輪の空気圧が足りない。(左右の違い) 駐車ブレーキが解除されていない。	主輪・駆動輪の空気を補充してください。 駐車ブレーキを解除してください。
	キャスタ取付けが緩んでいる。 キャスタ輪がスムーズに回転しない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
駐車ブレーキが効かない。	主輪・駆動輪の空気圧が足りない。 ブレーキシューが汚れている。	主輪・駆動輪の空気を補充してください。 ブレーキシューの油分を拭きとってください。
	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキががたつく。(本体が動く) ブレーキシューとタイヤが当たっていない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
介助ブレーキが効かない。	主輪・駆動輪の空気圧が足りない。	主輪・駆動輪の空気を補充してください。
	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキのワイヤーの伸び、切れ。 ブレーキシューの磨耗。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
主輪・駆動輪(タイヤ)に空気が入らない。	タイヤ用空気入れの種類が合っていない。	正規のタイヤ空気入れを使用してください。 お買い上げの販売店へご相談ください。
	タイヤチューブのパンク。 タイヤバルブ(虫ゴム)のやぶれ。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
車いすを折りたためない。	フットサポートが干渉している。 積載物などがはさまっている。	正規の状態にして再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 介助ブレーキのワイヤー等の引っかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
車いすをひろげられない。	駆動輪・主輪が縁石などに当たっている。	広い平らな場所で再度お試しください。
	シート・バックサポートのインナーベルトを張りすぎている。	張り調整をしながら、再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 シートの狭みこみ。 介助ブレーキのワイヤー等の引っかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
異臭がする。	シートやアームサポートの汚れ。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
異音がする。 車いすがぐらつく。	シートの伸び等による干渉。 サビ・磨耗・汚れ等による油切れ 主輪・駆動輪取付けの緩み	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。



MEMO

# 目次

P 1	・・・	各部の名称
P 2	・・・	ご確認ください 仕様・サイズ
P 3	・・・	車いすの揚げかた
P 4	・・・	車いすの折りたたみかた バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた
P 5	・・・	駐車ブレーキのかけかた 介助ブレーキのかけかた 駆動輪の操作のしかた（NA-U7のみ）
P 6	・・・	アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた アームサポート高の調整のしかた
P 7	・・・	フット・レッグサポートの開閉のしかた・着脱のしかた
P 8	・・・	フットサポートの調節のしかた サイドガードについて（必ずご確認ください）
P 9	・・・	折りたたみ対応専用座クッションの使いかた
P 10	・・・	バックサポートシートの取付けかた
P 11	・・・	インナーシート・座奥ベルトの装着について
P 12	・・・	バックサポートインナーシートの設定のしかた
P 14	・・・	座面の張り具合の調整のしかた
P 16	・・・	シート幅の調整のしかた
P 18	・・・	座面高の調節について 駐車ブレーキの調節方法
P 19	・・・	使用前点検（必ず行ってください） メンテナンス・保管方法
P 20	・・・	注意・警告
P 21	・・・	車いすを安全にご使用いただくための注意事項
P 22	・・・	車いすの使用のポイント
P 24	・・・	車いすのトラブルシューティング
P 26	・・・	目次 ウレタン素材には寿命があります
P 27	・・・	保証規定・品質保証書



## ウレタン素材には 寿命 があります。

- クッション性に優れているウレタン素材は、使用頻度にかかわらず経年変化を起こし、割れ、ヒビ、崩れを起こし、破損するおそれがあります。
- 特に通気の悪い場所での長期間の保管は避けてください。
- 割れやヒビ、崩れ等の症状が発生した場合は使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



キャスト輪



アームサポート  
パッド  
など

## 保証規定

### I. 保証の範囲

- 保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
- 保証期間はお買い上げ後1年間です。
- 但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
  - 取扱い過誤による故障。
  - 製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含まれます。
  - 天災、地変等による故障ならびに損傷。
  - 消耗部品、タイヤなど。
  - 保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
  - 保証書のご提示がない場合。
- 以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限ります。
- この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

### II. サービスのご用命

保証期間中、万一故障が生じた場合はお買い上げの販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

### III. ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

## 品質保証書

本商品については上面記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りお買い上げ日より「1年間」無償にて修理致します。

機種			
お客さま	ご住所	〒	
	(フリガナ) ご氏名	TEL	
お買上げ	年 月 日	保証有効年月日	年 月 日まで
販売店	<b>見本</b> (印)		
総販売元			
製造元	日進医療器株式会社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35-2 TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787		

# 日進医療器株式会社

本 社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35番地の2  
TEL<0568>21-0635(代) FAX<0568>23-2787  
東京営業所 〒112-0002 東京都文京区小石川 1-21-14  
TEL<03>3814-0923(代) FAX<03>3814-4644  
大阪営業所 〒533-0013 大阪府大阪市東淀川区豊里 6-16-10  
TEL<06>6323-8265(代) FAX<06>6326-2554  
九州営業所 〒812-0876 福岡県福岡市博多区昭南町2丁目3-8  
TEL<092>513-5036(代) FAX<092>513-5038

## 製品の廃棄方法

ご不用となった製品を処分される場合の廃棄方法につきましては、  
お住まいの自治体のルールに従ってください。

TRZ-033-02